

For Earth, For Life  
Kubota



ON YOUR SIDE

クボタグループの環境経営 - 気候変動と水資源への対策 -

株式会社クボタ 環境管理部

2025年12月19日

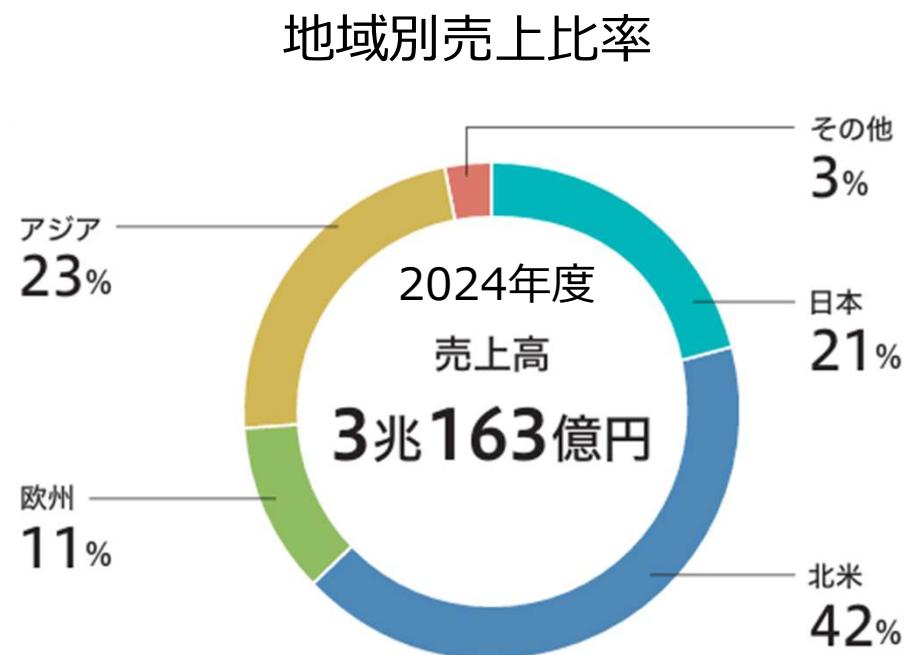
1. 会社概要
2. クボタグループの環境経営
3. 気候変動と水資源への対策

社名	株式会社クボタ
創業	1890年
資本金	841億円
連結売上高	3兆163億円
連結従業員数	52,094名
グローバル展開	120カ国以上
海外売上比率	79.0%

(2024年12月31日現在)

本社  
〒556-8601  
大阪市浪速区敷津東一丁目2番47号

東京本社  
〒104-8307  
東京都中央区京橋二丁目1番3号  
京橋トラストタワー



# クボタグループの生産拠点と主な製品

For Earth, For Life  
Kubota

- クボタ及び連結子会社の主な生産拠点をプロット  
計 73拠点 (2024年12月時点)



トラクタ



ミニバックホー



水道用鋳鉄管



インプルメント



ユーティリティビークル



※農場、工事現場、レジャー施設等で使用

エンジン



クラッキングコイル  
(エチレン精製に使われる分解管)



# 環境ビジョン

環境ビジョン ~2050年に向けて環境面からのありたい姿~

「食料・水・環境」分野で  
カーボンニュートラルでレジリエントな社会の実現に貢献します。

## カーボンニュートラルに向けたチャレンジ

スコープ1, 2:  
拠点での排出削減



- ・クボタ生産方式(KPS)の考え方に基づくエネルギーのムダ・ロス削減や生産性向上などの省エネルギー対策、燃料転換を推進します
- ・再生可能エネルギーの利用を拡大します

スコープ3:  
製品からの排出削減



- ・農業機械、建設機械で電動製品の開発、燃料電池製品の開発を進めます
- ・エンジン、エンジン搭載製品において低・脱炭素燃料の利用拡大を進めます
- ・より少ないエネルギーでより多くの作業ができるよう、製品使用時の効率改善を進めます

社会の温室効果ガス:  
社会活動からの排出抑制



- ・農業からの温室効果ガス排出抑制に貢献するソリューションを開発します
- ・資源の回収・再生産化の技術を提供し、サーキュラー・エコノミーと資源採取・精製にともなう温室効果ガス排出抑制に貢献します
- ・都市インフラの管理効率化につながるソリューションを開発します

## 気候変動の緩和に向けた取り組み



クボタグループの  
CO2排出量  
(スコープ1, 2)

2030年目標

50%削減  
(2014年比)

2040年目標

75%削減

## 環境配慮性の高い製品の開発



エコプロダクト認定  
製品売上高比率

2030年目標

80%以上

上市する新製品はすべてエコプロダクト認定製品をめざす

# 環境保全中期目標

For Earth, For Life  
Kubota

対象範囲	課題	取り組み項目	管理指標 (KPI)	基準年度	目標	
					2025年度	2030年度
グローバル生産拠点	気候変動の緩和と適応	CO2削減 (スコープ1、2)	CO2排出原単位 (スコープ1,2)	2014	▲45%	▲60%
			再生可能エネルギー利用率	—	20%以上	60%以上
		省エネルギー推進	エネルギー使用原単位	2014	▲35%	▲45%
	循環型社会の形成	廃棄物削減	廃棄物排出原単位	2014	▲45%	▲60%
			有害廃棄物排出原単位	2019	▲17%	▲35%
			再資源化率 (国内)	—	99.5%以上を維持	96%以上
			再資源化率 (海外)	—	90.0%以上を維持	
	水資源の保全	水資源節約	水使用原単位	2014	▲35%	▲45%
	化学物質の管理	VOC削減	VOC排出原単位	2014	▲42%	▲42%
製品	製品の環境性能向上	エコプロダクトの拡充	エコプロダクト認定製品売上高比率	—	70%以上	80%以上
		リサイクルの推進	リサイクル素材使用率	—	70%以上を維持	-

# 低炭素経済への移行計画 (ロードマップ)

## 開発、先行市場での実用化フェーズ

地域のエネルギー供給インフラ状況や市場ニーズに応じ、  
多様な動力源を活用した製品の拡充

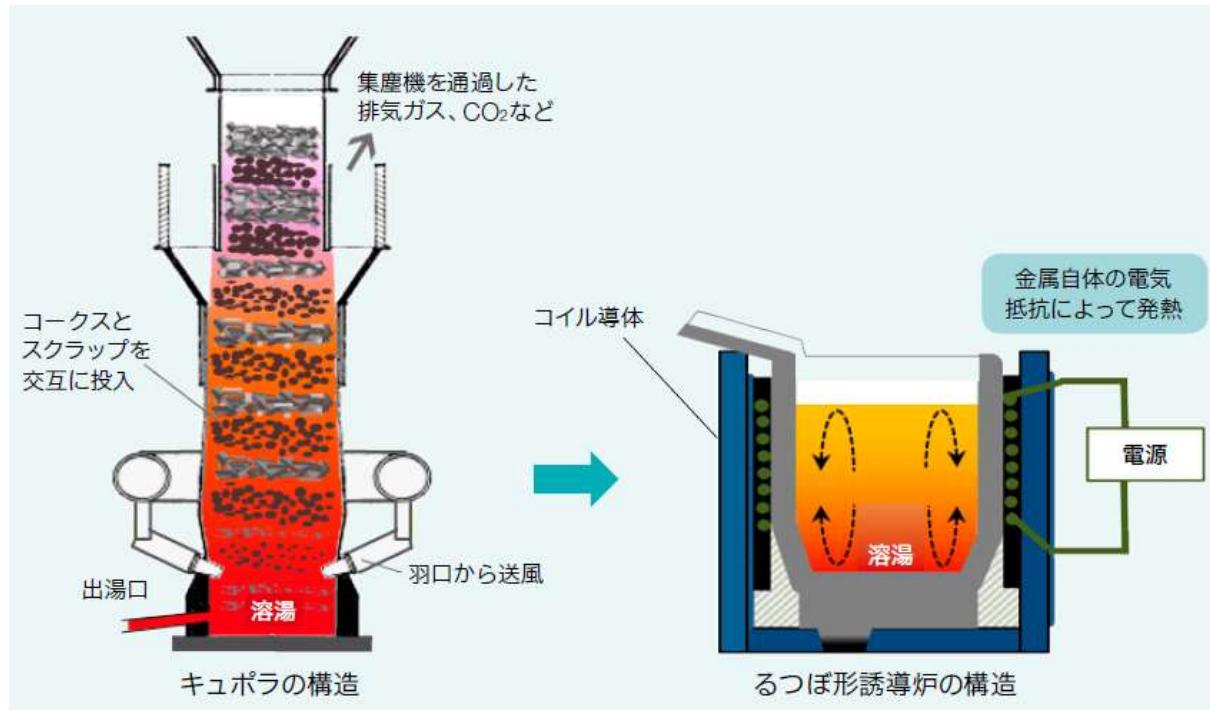


現時点の検討可能な情報などに基づくものです。今後の技術開発や市場動向などにより大きく異なる可能性があります。

## 脱炭素に向けて電気炉を導入

### 鋳物工場で溶解炉「キュポラ」を廃止し、電気炉を導入

- ・水道用鋳鉄管を生産しているクボタ阪神工場では、2023年に溶解炉「キュポラ」を廃止し、電気炉に転換。
- ・「キュポラ」は大容量であるが、粉塵やCO<sub>2</sub>の排出量が多い
- ・エンジン鋳物を生産しているクボタ恩加島事業センターでも同様に「キュポラ」から電気炉への転換を推進中。
- ・両工場でのCO<sub>2</sub>削減効果は年間26,000tを見込んでいる。



## 次世代動力製品

### 電動トラクタ、電動建機を欧州で上市

- ・2023年より、欧州でコンパクト電動トラクタの長期有償レンタルを開始。
- ・電動ミニバックホーを2024年春、欧州市場に投入。
- ・両製品とも、運転時に排気ガスを排出しない。  
→CO2や大気汚染物質を排出しない。



LXe-261



KX038-4e

### テクノロジー見本市 CES® 2024でコンセプトマシンを発表

- ・自動運転が可能な電動車両
- ・カメラやセンサーによる情報で自律的かつ安全に作業
- ・バッテリー残量10%から80%まで6分以内に充電可能



コンセプトマシン「New Agri Concept」

### 開発中の水素燃料電池トラクタを公開

- ・2024年3月に開発中のFCトラクタ試作機を公開
- ・水素を燃料として、水素と酸素の化学反応によって生み出した電気でモーターを駆動して走る仕組み
- ・実場での実証実験を進めている



## 低炭素燃料活用・効率改善

### 水素エンジンの開発

- ・2022年、発電機に搭載する水素エンジンの開発に着手
- ・運搬が容易な可搬形発電機は工事現場やイベント会場等で電力を供給するために広く使用されている
- ・ボリュームゾーンである 45kVA のディーゼル発電機用を想定した開発を進め、早期の市場投入をめざしている
- ・水素エンジンの発電機は水素だけを燃料とし、運転時にCO2を排出しないのが特徴



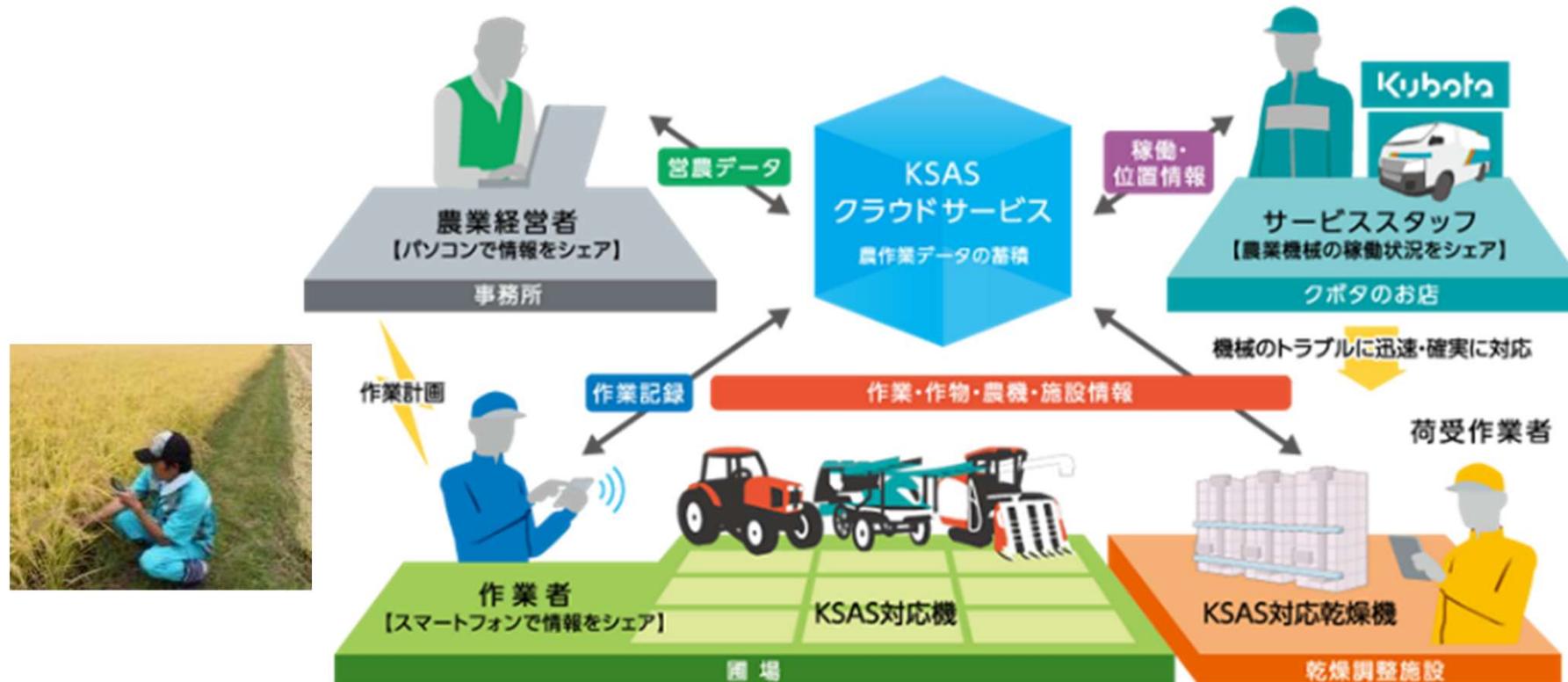
クボタ 3.8L 水素エンジン

# 農業ソリューションシステム

## クボタスマートアグリシステム（KSAS）

食味・収量センサ付きコンバインで、刈取りしながら収集したデータをもとに次年度の可変施肥で食味・収量を改善

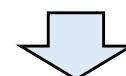
→効率的な運転および肥料の適量使用による省エネ・省資源が可能に！



## 自動運転農機

### アグリロボ

日本では農家戸数の減少や高齢化により  
熟練した技術をもった人員の確保が困難になっている



スマート農業で後継者育成を支援

→自動運転により、熟練者でなくとも精密な作業が可能に！  
運転の効率化や最適化を実現



自動運転トラクタ



自動運転コンバイン

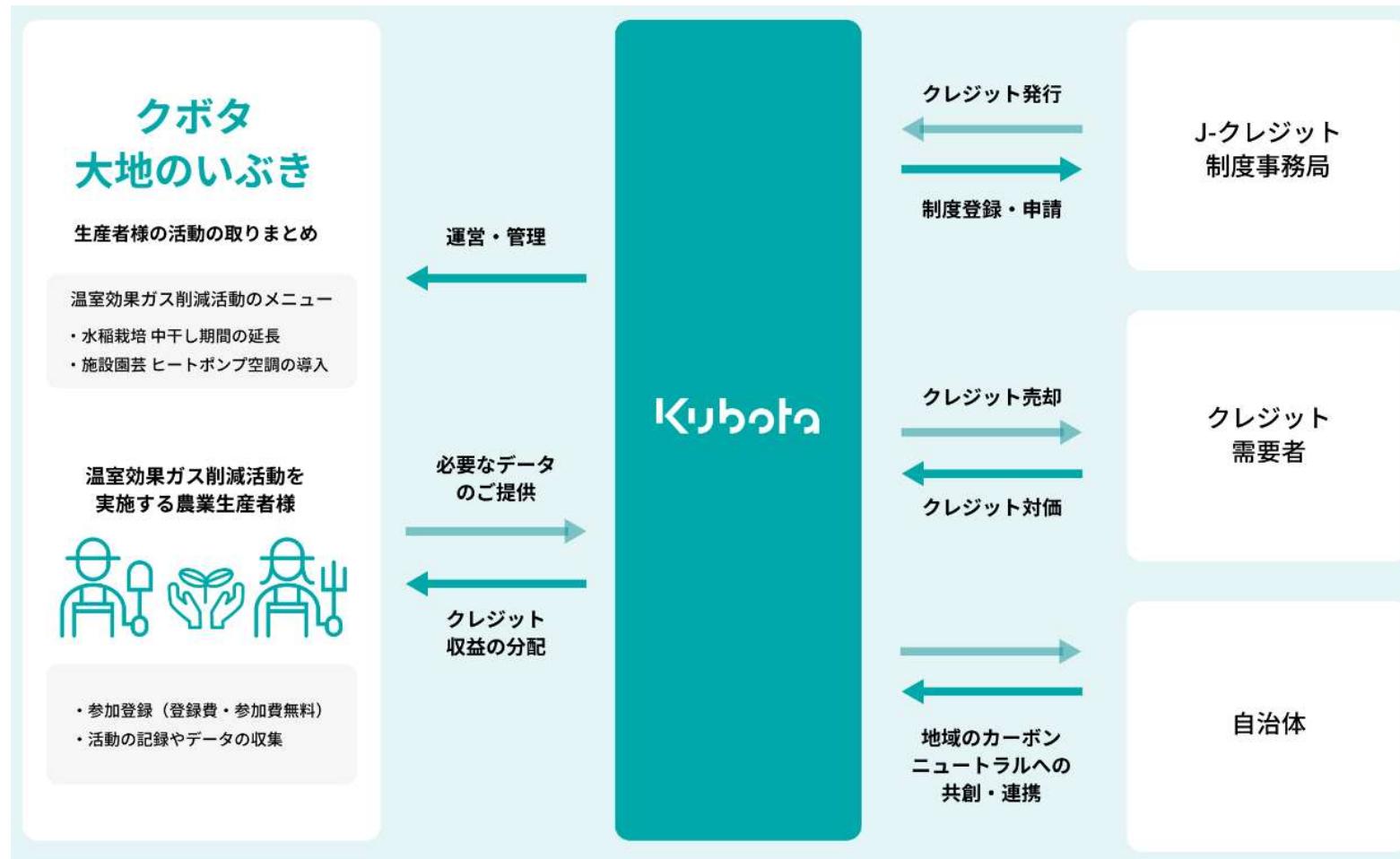


自動運転田植機

# 農業でのGHG削減活動のJ-クレジット創出

## クボタ大地のいぶき

- 目的：農業でのGHG削減活動の促進
- 役割：水田の中干し延長など、農業関連のJ-クレジット創出プロジェクトを運営



# ■ 自社技術を利用した排水管理の効率化

## クボタ液中膜ユニットおよび水管理ソリューションシステム（KSIS）

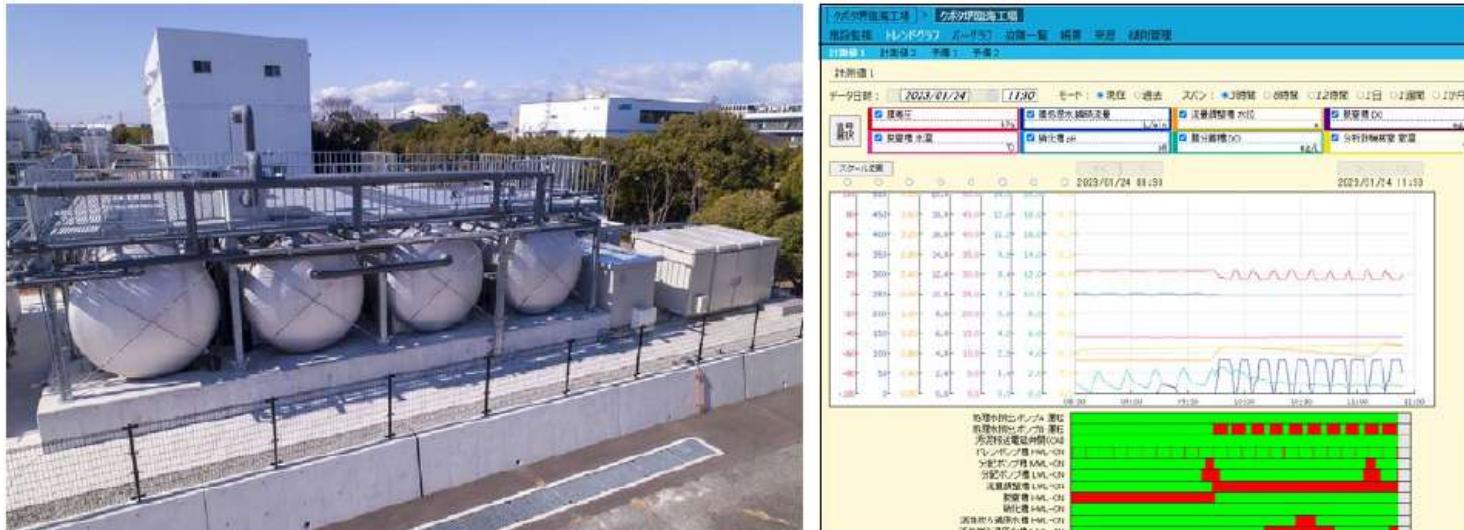
- クボタグループの生産拠点では、排水の適切な管理やリスク低減のために自社技術を利用した排水処理設備や排水再生システムを導入。
- 日本、中国、タイ、インドネシア、アメリカの拠点で水リサイクルを実施中。
- さらに、IoTを活用した水管理ソリューションシステム（KSIS）の導入や排水の水質を連続測定し、異常監視や外部放流の自動遮断などの対策を推進中。

### クボタ堺臨海工場の事例

生活系廃水の高度処理が可能な液中膜方式のFRP浄化槽を増設。

また、BCP対策として、排水処理施設のコンクリート基礎を嵩上げ。

IoTを活用した水管理ソリューションシステム（KSIS）を導入し、工場排水の適切な管理を実現。



# 気象災害に強い水インフラ整備への貢献

## 開削不要な下水管の敷設

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>上下水道設備の老朽化</li> <li>開削工事の困難化</li> <li>豪雨や洪水などの気象災害増加により、水インフラの損傷リスクの高まり</li> </ul>
クボタの貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存管の内側に硬質塩ビ製の管を敷設</li> </ul>
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>開削工事の最小化</li> <li>耐久性の確保</li> </ul>



## 道路を掘らず水道管の腐食具合を調査

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>地面を掘って水道管の調査を行う手間とコスト (従来は道路を掘り返して直接検査)</li> <li>水道管破裂による道路冠水、漏水</li> </ul>
クボタの貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>土壤の電気抵抗から水道管の腐食を推定する技術の提供 (2028年実用化の予定)</li> </ul>
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査距離の拡大 (10m/日→5000m/日)</li> <li>腐食検査費用は1/30に低下</li> </ul>



### CDP2025「気候変動」および「水セキュリティ」の両分野で最高評価を獲得

国際的な環境情報の調査や開示を行う  
非営利団体であるCDPより、「気候変動」  
および「水セキュリティ」の両分野で、最高  
評価のAリスト企業に選定された。  
当社がAリストに選定されるのは、気候変  
動では2回目、水セキュリティでは6回目。



# For Earth, For Life

## クリボタ

ご清聴ありがとうございました